4校
5/6/21 13:13
佐々岡

“この人に学ぶ”

第９回　嘉納治五郎

全管連　技術参与　小泉智和

嘉納治五郎といえば、柔道家、講道館と答える人が多いのではないでしょうか。

しかし、彼の長い人生を見ると、柔道も教育の場として考え、教育者として大きな貢献を果たしてきました。生涯を通じ、体育の向上に努力し、後半生は東洋初のオリンピック委員にもなり、日本オリンピック招致に尽力しました。

嘉納治五郎

○嘉納治五郎の名言

教育者、柔道家としての嘉納治五郎は多くの名言を残しているので、少しご紹介しましょう。

・精力善用　自他共栄（心身の持つ全ての力を最大限に生かして、社会のために善い方向に用いる。自分だけでなく他人と共に栄えある世の中にしよう）

・人に勝つより、自分に勝ちなさい。

・人生には何よりも、「なに、くそ」という精神が、一番重要だ。

・何事も、初めからうまく行くことは、少ないものだ。

・人生はいろいろな難関に出くわす。難関が次から次へとやってくるから面白いのだ。恐れちゃいけない。

・時間を最も有効に利用した者に、最も立派な仕事が出来る。

○嘉納治五郎の生涯

幕末の万延元年（1860）、摂津国御影（みかげ）村（現神戸市東灘区御影町）で生まれました。嘉納家は、御影屈指の名家で酒造、廻船業を営んでいました。幕府廻船方を勤めていたこともあったので、父は明治政府に招聘（しょうへい）され、治五郎も父について上京しました。

神戸育英義塾（現育英高校）、開成学校（現東京大学）を経て、明治14年

4校
5/6/21 13:13
佐々岡

（1881）に東京大学政治学・理財学科を卒業しました。

彼は虚弱体質であったこともあり、父の反対を押し切って柔術を学び、そして独自の「柔道」を作り、明治15年には「講道館」を設立しました。

教育者としては、明治15年学習院教頭、後第五高等中学校（現熊本大学）校長、第一高等中学校（現東京大学）校長を経て、明治26年から東京高等師範学校（現筑波大学）校長を歴任しました。

明治44年には、大日本体育協会（現日本体育協会）を設立、同45年、日本初参加のオリンピック・ストックホルム大会には団長として参加しました。

その後、オリンピック日本招致に奔走しますが、昭和13年、カイロのIOC総会からの帰国途上、氷川丸船上で死亡（肺炎）、77歳でした。墓は都立八柱（やばしら）霊園（千葉県松戸市）。

生涯を概観すれば以上ですが、彼が活躍した柔道と体育の分野について、もう少し詳しくご紹介しましょう。

○柔道の父

嘉納治五郎は、体格に恵まれなかったこともあり、開成学校（東大）入学後、非力な者でも力の強い者を倒すことができる柔術を学び、「崩しの理論」や「形」などを確立し、「自分自身や人を高めていく〝柔の道〟」、「勝ち負けよりも〝人の道〟を教える」柔道を作り上げました。

明治15年、下谷北稲荷町（現台東区東上野）の永昌寺の居間と書院を道場とし、段位制を取り入れた「講道館」を設立しました。道場はその後、転々としますが、現在では水道橋の講道館国際柔道センターに世界の柔道家が憧れる道場があります。＊約200の国と地域が国際柔道連盟に加入しています。

彼の柔道精神は、灘高校（旧制灘中学校・神戸市）の校是にもなっている「精力善用　自他共栄」です。

○日本体育の父

明治42年、近代オリンピックの父・クーベルタン男爵の要請により、アジア初の国際オリンピック委員会（IOC）の委員になりました。

その彼は、欧米だけで実施されてきたオリンピックを極東の地で開催してこそ世界的な広がりを持つのだと強調し、国内外を奔走します。

そして、昭和15年のオリンピック東京招致に成功します（残念ながら戦争で返上）。

彼には、日本の国民に近代の世界を見せたいという思い、また、世界に日本の姿を見せたいという思いがありました。

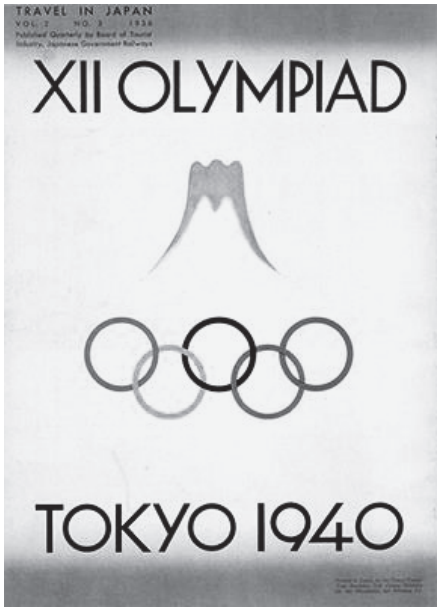
特に日本の剣道や柔道といった武道の〝武〟の文化を広げるためにオリンピックをその舞台に活用しようと考えていま

4校
5/6/21 13:13
佐々岡

した。

一方では、早くから青少年の体育向上に関心を寄せ、東京高等師範学校では、体操専修科を開設し、全学参加の水泳実習や長距離競争大会を実施しました。

明治44年には、大日本体育協会（現日本体育協会）を設立し、会長となって



1940年オリンピック招致ポスター
（鉄道省制作）

います。

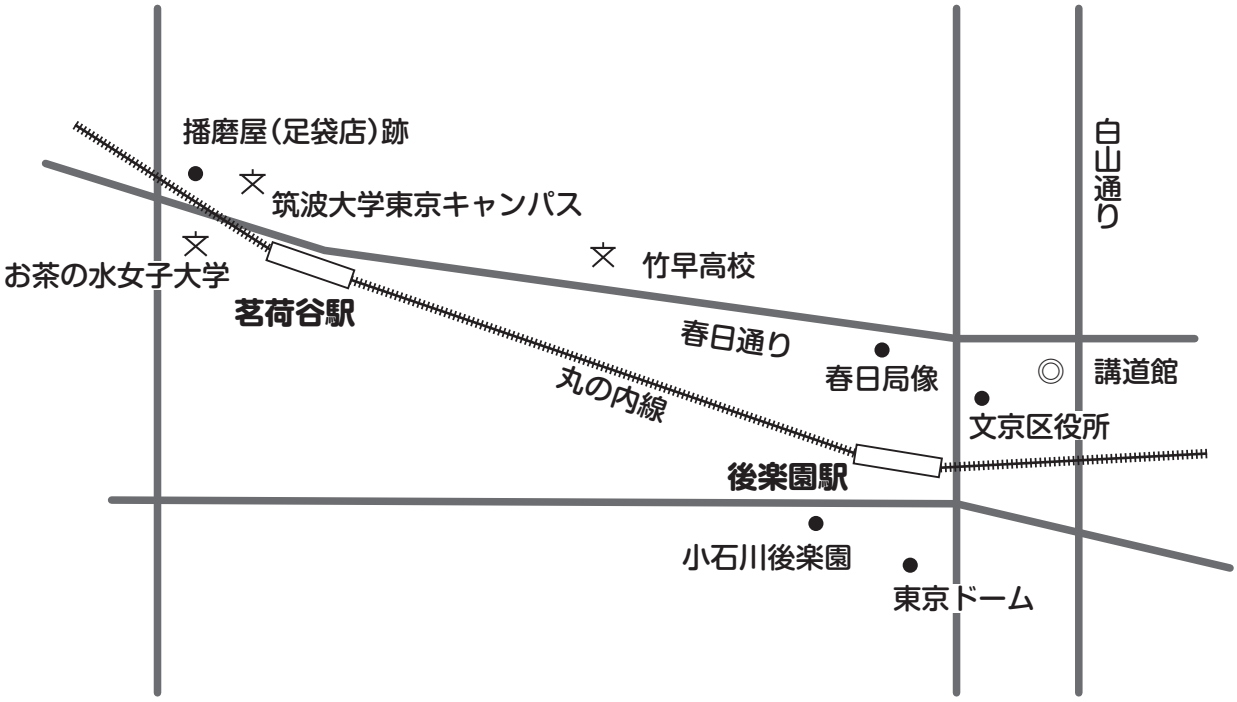
＊「オリンピック・パラリンピック東京2020」は、本年（2021）７月・８月に開催されます。

海外観客は、なしとなりましたが、国内観客をどうするのか、本稿を書いている５月初旬現在未定で、最終判断は６月になる模様です。

シティボランティアに登録し、これまでオンラインでの研修を受け、ボランティアリーダーの依頼を受けている筆者ですが、役割分担は、５月中には決めるとの通知が来ているだけです。国内観客数制限の問題やコロナウィルスの対応など課題山積ですが、７月23日には、ぱっと花開くのを期待したいと思います。

○講道館周辺ぶらり散歩

筑波大学東京キャンパスの地は、旧東



4校
5/6/21 13:13
佐々岡

京高等師範学校（→旧教育大学→現筑波大学）があった場所です。道路を隔てた前は、お茶の水女子大学（旧東京女子高等師範学校）で、附属中学校には秋篠宮悠仁（ひさひと）殿下が通学されています。竹早高校は、嘉納治五郎の薫陶を受けオリンピックに播磨屋の足袋を履いて初参加のイダテンこと金栗四三が「国力を支えるのは女子とスポーツだ」の考えで、女子にスポーツを奨励した旧府立第二高等女学校があった地です。

少し歩きますが、文京区役所の25階展望台から都内、更には関東一円を遠望しましょう。隣は講道館です。柔道資料展示室を見て、道場での練習風景も見学しましょう。

講道館道場（講道館ホームページより）

管工事組合の皆さん、その家族の方が東京に来られたら、小泉がご案内します。

申し込み：全管連事務局　所要１～２時間　無料

＊参考資料：「代表的日本人」
斎藤孝著　筑摩書房
「私の生涯と柔道」
嘉納治五郎著　潮文庫

次号は、津田梅子をご紹介します。

別記事が入ります